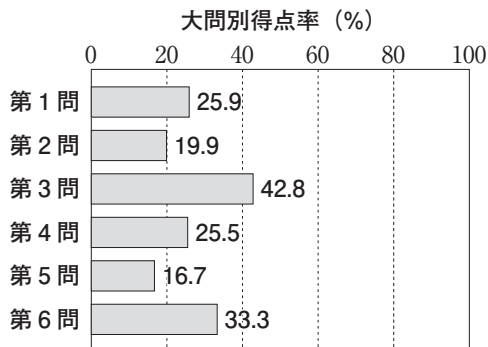
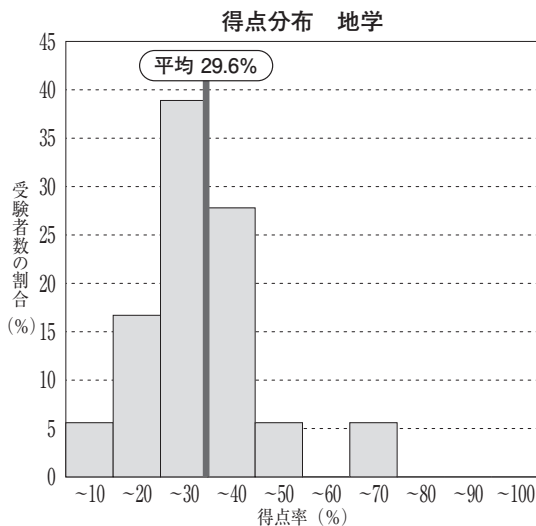


地 学

教科書の内容の完全理解を目指そう。

I. 全体講評

今回の得点分布は、次のようになっている。平均点は29.6点であった。2月時点では、まだ全範囲の学習を終えていないと思われるため、得点の低さを過度に心配する必要はない。学習済みの範囲で得点できていたかどうかを確認してほしい。なお、「地学」は「地学基礎」に比べて学習項目が多いが、教科書をしっかりと理解することで高得点を狙える科目である。着実に得点を伸ばしていくようにしよう。



II. 大問別分析

第1問 固体地球

知識を論理的に捉えよう。

Aでは地球の層構造についての総合的理解を確認した。地球内部の物質とその状態だけでなく地震波速度の変化についても把握しておこう。

Bではプレート境界についての基礎的理解を確認した。地図の上で、それぞれの境界の分布を確認しておこう。

Cでは重力と重力異常についての基礎的知識を確認した。重力異常については2016年のセンター試験でも出題されている。

Dではマグマの発生についての基礎的理解を確認した。マグマの発生機構について理解しておこう。上部マントルとマグマの生成については、2018年のセンター試験でも出題されている。

第2問 地層・地質図・岩石・鉱物

図を描いて考えよう。

Aでは変成岩についての総合的理解を確認した。紅柱石・らん晶石・珪線石の多形関係はセンター試験で頻出である。

Bでは地質図の基礎的な作図力を確認した。地質図についての問題はセンター試験では頻出である。走向・傾斜から地層境界線を描く練習を繰り返しておこう。

Cでは流水のはたらきについての基礎的理解を確認した。流水と地形の関係も理解しておこう。

第3問 風の吹き方・海流・エルニーニョ

仕組みを理解し応用しよう。

Aでは風の吹き方と大気の大循環についての総合的理解を確認した。地衡風については2018年のセンター試験でも出題されている。解説の図を参考に、風にはたらく力の関係や用語も確認しておこう。

Bでは黒潮を題材に海流についての基礎的理解を確認した。海流と海面高度の関係を理解しておこう。

Cではエルニーニョに関する基礎的知識を確認した。エルニーニョなど気象に関する身近な話題は教科書だけに頼らず、日頃から気象情報や気象に関するニュースに関心を持ち、広く知識を得ることを心がけよう。

第4問 宇宙

グラフや図の読み取りに慣れよう。

Aでは恒星の寿命と進化についての総合的理解を確認した。HR図については2018年、2015年のセンター試験でも出題されている。距離と明るさの関係について正しく理解しておこう。

Bでは金星の視運動についてとケプラーの第三法則についての理解と計算力を確認した。惑星の視運動について、その理由とともに確認しておこう。

第5問 地質構造と火成岩

地質断面図を描けるよう繰り返し練習しよう。

Aでは地質構造と重力異常の関係の理解を確認するとともにルートマップから地質断面図を描いて必要な情報を得る力を確認した。地質断面図を描く練習を繰り返そう。

Bでは火成岩と鉱物についての基礎的理解を確認した。どちらもセンター試験で頻出である。しっかり知識を整理しておこう。

第6問 宇宙

新しい話題に注意しよう。

Aではダークマターとダークエネルギーについての理解を確認した。センター試験でもまだ新しい題材であるが、教科書などで知識を整理しておこう。

Bでは銀河系の天体についての総合的理解を確認した。銀河系の天体だけでなく、その構造と運動についてもまとめておこう。2019年のセンター試験では銀河回転が出題された。

なお、第5・6問は選択問題になっている。両問題をざっと見比べた上で、学習の進捗状況などに合わせて取り組みやすい方を選択すればよい。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆センター試験の地学について。

センター試験の出題範囲は教科書に限られてい

る。センター試験で高得点を得るためには、「教科書」→「問題演習」→「教科書」という流れの学習方法を徹底し、教科書を徹底理解することが大切である。そのために、教科書の通読から始めよう。はじめは、理解しようとか暗記しようとか考えず、地学の内容を概観することが大切である。地学は地球物理、プレートテクトニクス、岩石・鉱物、地質・地史、気象、天文、自然環境と範囲が多岐にわたっている。これらについてどんなことを学ぶのか、どのような図表やグラフがあるのか、大体のイメージを最初に作っておくことがその後の学習に役立つ。

◆これからの学習について。

学習にあたって最も大事なことは、地学は暗記科目ではないということである。

教科書を通読したら、今度はできるだけ丁寧に教科書を読んでいこう。このときに大事なことは地学の各分野それぞれの論理の展開を把握することである。どのような観測や観察、実験がされて、そこからどのような考察がされているのかを理解しよう。そのために、図・表・グラフを正確に読む力をつけていこう。教科書の図やグラフはセンター試験に繰り返し出題されている。図やグラフを正確に読むためには、それを自分でノートに描いてみるのが大切である。また、教科書を読むときは用語を暗記しようとするのではなく、その用語がどのように使われているのか、その論理の道筋を理解するようにしよう。また、各分野がそれぞれに関連しあっていることも多い。どのように関連しているかに注意して学習を進めよう。

◆模試を活用しよう。

「地学」にはセンター試験の過去問が少なく、演習量が不足しがちである。そのため、模試を演習の一環として学習を進めていくことが重要となる。2か月ごとに実施される東進のセンター試験本番レベル模試は、全国統一高校生テストも含め年6回で「地学」の出題範囲をすべてカバーするため、学習の進み方と学習の不足点を判定できるよい機会である。今後も模試の受験を継続し、着実に得点を伸ばしていこう。